

日本遺産に「忍者」と

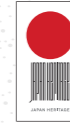
「忍びの里 伊賀・甲賀—リアル忍者を求めて—」と信楽焼を含む「きっと恋する六古窯—日本生まれ日本育ちのやきもの産地—」が日本遺産に認定されました。今後は、忍者と信楽焼を世界に発信し、地域の産業化につなげていくため、市民の皆さんとともにオール甲賀で取り組んでいきます。



「信楽焼」



ダブル認定



日本遺産とは？

「日本遺産」とは、地域に点在する文化財や伝統などに関連づけたストーリー（物語）を文化庁が認定する制度のことで、平成27年度から始まりました。日本遺産は、ストーリーを語る上で欠かせない魅力あるさまざまな文化財を、地域が中心となって整備・活用することで、国内外の観光客を増やしたり、地域の活性化に役立てたりしようとするものです。

「忍者」のストーリーを構成する 甲賀の文化遺産

- 甲賀の中世城館群
(甲賀郡中惣遺跡群、和田城、滝川城、篠山城、梅垣城、上野城、土山城、黒川氏城、下山城、大原城)
- 神君伊賀越え関連遺跡
(小川城跡、多羅尾代官陣屋跡)
- 水口岡山城跡
- 和田公方屋敷跡
- 油日神社
- 甲賀衆結束の鎮守の社
(大鳥神社、矢川神社、新宮神社、柏木神社、檜尾神社)
- 櫛野寺仏像群
- 山伏の修練場
(飯道山、岩尾山、庚申山)
- 忍書
(萬川集海、忍術應儀傳、渡辺家忍者史料)
- 甲賀忍術博物館建物群
- 甲賀のくすり関連資料
- 甲賀の前挽鋸

忍者を感じよう



甲賀のくすり 甲賀のくすり関連資料

山伏たちが諸国を巡り、札とともに配ったのが甲賀売薬の起源と伝わっています。甲賀忍術の中に火薬や薬の記述が多いのも、山伏の薬草の技術、知識が生かされたものであり、今日の配置売薬の礎となりました。



多羅尾代官陣屋跡

多羅尾代官陣屋跡(神君伊賀越え関連遺跡)

甲賀衆であった多羅尾家は徳川家康の神君伊賀越えの際に家康を護衛しました。その功績により、その後幕末まで代官に取り立てられました。



油日神社楼門・廻廊

油日神社

忍者の実像は「甲賀衆」と呼ばれた地侍たちであり、油日神社は甲賀衆の結束の場で、今も寄合いを行ったとされる廻廊が残っています。



飯道山の護摩修行

飯道山

近江屈指の修験霊場である飯道山には今も石垣で囲まれた寺院跡が残り、極彩色に彩られた飯道神社本殿が建っています。甲賀忍者が修行した場として伝わっています。

認定された「忍者」のストーリーを紹介するよ!



忍びの里 伊賀・甲賀

—リアル忍者を求めて—

(甲賀市・三重県伊賀市)

今や忍者はテレビやインターネットなどを通じて海外にまで広く知れ渡り、奇抜なアクションで人々を魅了していますが、本当の姿はあまり知られていません。忍者は、複雑な地形を利用して多くの城館を築き、互いに連携して自らの地を治め、地域の平和を守りぬいた集団でした。豊かな宗教文化や歴史に触れれば、忍者の真の姿が浮かび上がります。リアルな忍者の面影が残る里、それが「伊賀・甲賀」であり、戦乱の時代を駆け抜けた忍者の伝統が今もここに息づいています。